

Good Job!! Nagasaki

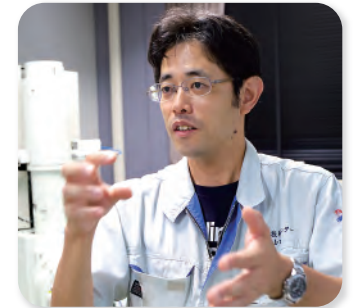


今日のグッジョブ
[窯業技術センター]

長崎県の窯業技術を支える 開かれた試験研究機関

環境・機能材料科 やまぐちのりお 山口典男さん

環境分野で窯業の技術をいかした研究開発を行っています。今、取り組んでいるのは、火力発電所から出る石炭灰や都市ごみなどの廃棄物を窯業の技術を使って再利用するジオポリマーコンクリートの開発です。研究の成果が社会で花開くことを夢見て頑張っています



陶磁器科 こうのまさあき 河野将明さん

新しいやきものを開発したいというメーカーを支援するために、素材に関する情報収集や原料の分析、土の試作・試験などを行いながら、データの蓄積を行っています。また、若い女性に好まれるカラフルな陶磁器の研究のほか、汚れが落ちやすい機能性食器の開発などにも力を入れています



戦略・デザイン科 よだしんじ 依田慎二さん

3次元CADデータを活用し、短時間で精度の高い商品開発を行っています。また、年間150以上の製品のデザインや試作品等を窯元さんなどと一緒に作り上げています。デザインが形になってその商品が売れるとうれしいですね



最先端の設備と高い技術で
新製品を生み出す
姿に Good Job!!

国内でも導入事例の少ない最新の陶磁器型製造用5軸モデリングマシンを使用し、複雑な形状のコーヒードリッパーを開発



産地とともに歩む 窯業技術の専門家

やきものの里・波佐見町にある窯業技術センター。豊かな自然に囲まれた建物には、試験・研究室、デザイン室などのほか、波佐見焼や三川内焼など陶磁器の展示コーナーもあり、毎年11月23日には施設の一部を一般公開しています。

「当センターは、県内陶磁器産業とガラス、セメントなどの無機材料関係産業を支援するために、研究開発や技術相談、依頼試験、人材養成、情報発信などの業務を行っています。また、環境分野や熱・電気などの機能を持つ材料の研究開発、陶磁器をはじめ幅広いデザインの支援を行うほか、産地のPRや商品の販路開拓などについても、産地と一緒に積極的に取り組んでいます」と話すのは、ふくだまさひろ 佛田正博所長で、20名の職員と共に業務に励んでいます。

環境・機能材料科の研究室には、国内でも数少ない遠赤外線量を測定できる装置や電子顕微鏡なども設置されています。陶磁器科は、世界で最初に窯の中が見える透視炉を開発したことで注目を浴びました。戦略・デ

ザイン科は、毎年開催されている、県内の優れたデザインを表彰する長崎デザインアワードにも携わっています。また、センターでは、長崎がんばらんば国体・大会の炬火トーチのデザインやミニ炬火台のデザイン、試作を担当し、ねりんピック長崎2016でもメダルや入賞楯、記念章などの試作を支援するなど、やきものだけでなく、幅広い分野で長崎県のものづくりを支えています。

近年、波佐見焼を中心に全国から注目が集まっている長崎県の陶磁器。その発展を支えている窯業技術センターは、今後も産地とともに力強く歩んでいきます。

本県の窯業は400年もの長い歴史をもち、県の地場産業として地域の発展に貢献してきました。

今後も身近な技術支援の拠点として、最新技術の開発や県内企業の技術力向上支援に取り組み、県内の陶磁器・セラミックス産業の発展に尽くしていきます。



長崎県知事 中村法道

陶土の製造から成形、絵付、焼成など、陶磁器ができるまでの作業を行う作業棟にあるガス窯の前で。後列右端が佛田所長